慶應義塾大学出版会
新聞書評紹介書籍のご案内

人文書ご担当者様

○5月新刊『井筒俊彦』の紹介記事が6月19日の朝日新聞に続き日経新聞にも掲載されました。
○左の注文書に番線、部数を明記の上、ＦＡＸにて弊社までご注文下さい。
○なお『井筒俊彦』は現在重版中で7月8日出来予定です。重版出来次第の出荷となります。
ご了承下さい。

ＦＡＸ
０３―３４５１―３１２２

井筒俊彦

若松　英輔著

これまで不当な忘却を強いられてきた知の巨人、井筒俊彦の仕事をようやく正面から論じるための条件が整ってきた。著作集には収録されなかった膨大かつ重要な諸論考が集大成され、『読むと書く』という一冊にまとまり、初期の代表作『神秘哲学』も、オリジナルに忠実なかたちで復刻された（いずれも慶應義塾大学出版会より刊行）。そうした井筒リバイバルの中心に位置している著者の手によってまとめられた本書は、井筒俊彦のこれまでほとんど知られることのなかった生涯の軌跡と、イスラームの意味論を核としてさまざまな分野を自在に横断していったその思想が孕みもっていた可能性を明らかにしてくれる、正真正銘はじめての書物となった。

井筒俊彦

稲垣足穂の名前も登場する『神秘哲学』が刊行されるまでの経緯と背景、井筒にイスラームを全人格的に教授してくれた「二人のタタール人」、ロシア文学を学ぶきっかけとなった特異な人物、慶應義塾で開講していた伝説の講義「言語学概論」の内容、後期の代表作『意識と本質』の直接の源泉となったエラノス会議での井筒の報告と井筒を取り巻いていた第一級の知識人たちとの神話的な交友等々、本書によって、読者がその詳細をはじめて知る事柄は数多い。そして著者は、井筒を世界的なイスラーム研究者としてばかりではなく、なによりもまず、さまざまなテクストを徹底的に「読む」人として位置づけ直す。「誤読」を恐れず、逆にその「誤読」さえもが創造的な営為に転換してしまうまで、「読む」。

「まえがき」に記された一文は重い。「井筒がいう創造的営為としての『読み』と、『誤読』を創造的に実践する読者の出現が作品を完成させる」。本書がまさに実践していることであるし、本書ではあえて論じられなかったいくつかの主題をもとに、本書を読み終えた人々が真っ先にとりかからなければならない次なる課題でもある。創造的な「誤読」とは、「読む」ことがいつの間にか「書く」ことへ転換してしまう「批評」という行為そのものである。そこでこそ、井筒が終生のテーマとした詩と哲学が一つに重なり合う。

文芸評論家　安藤　礼二

（慶応義塾大学出版会・３４００円）

▼わかまつ・えいすけ　68年生まれ。批評家。『小林秀雄―越知保夫全作品』などを編集。

日本経済新聞
2011年7月3日「読書」欄

☞今回の書評の中で井筒俊彦の本として紹介されています。あわせてご展開下さい。

☆ご注文は今すぐＦＡＸで！　０３―３４５１―３１２２

返品条件付注文品	返品条件付注文品	返品条件付注文品
番線	番線	番線
部数	部数	部数
発行所：慶應義塾大学出版会 井筒俊彦著／若松英輔編 **読むと書く**――井筒俊彦エッセイ集 ISBN978-4-7664-1663-3 C0000	発行所：慶應義塾大学出版会 井筒俊彦著 **神秘哲学**――ギリシアの部 ISBN978-4-7664-1729-6 C3010	発行所：慶應義塾大学出版会 若松英輔著 **井筒俊彦**――叡知の哲学 ISBN978-4-7664-1811-8 C0010
定価6,090円 （本体5,800円）	定価6,090円 （本体5,800円）	定価3,570円 （本体3,400円）
7/3書評関連書籍	7/3書評関連書籍	7/3書評書籍 重版中7/8出来 出来次第の出荷となります

「当出版社からのFAX情報停止を希望される方」は、お記記載の上、FAXで送信いただきますようおねがいいたします。
このフリーダイヤルでは御注文をお受けできません
配信停止受付FAX：0120-106394
自動音声案内 0120-147456
貴店名：
ＦＡＸ：
芳名：
電話：
14213154330